

学習指導要領の「内容」の(4)アの「戦国の亂れとその時代のヨーロッパ人の来航について理解させる」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として扱っており、不適切である。

(関連修正) (学習の深化のために必要な絵画資料が脱落していたため、入れる。これに伴い、以下図版番号も修正する。)

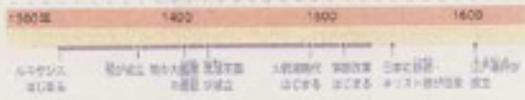
単元学習 2

～一体化に向かう世界

(関連修正) (宮内庁でテーマタイトルを世界史学習の深化を示すものに変更したので、ページタイトとも深化にふさわしいものに修正する。)



この時代に、どうしてヨーロッパの人々が、アジアに大冒険にやってきたのか。



15～16世紀にかけて、東アジアでは、中国の明を中心に、朝鮮・日本・東南アジアを結ぶ交易がさかんでした。また、西アジアから北アフリカ、インドにかけてイスラム教国が拡大し、イスラム商人は、インド洋を舞台にした貿易で活躍しました。そうしたなか、ヨーロッパ人は、アジアやアメリカ大陸へ向かう航路をひらき、これらの地域へ積極的に進出しました。やがて世界は、ヨーロッパがアジアやアメリカ大陸を支配し従える形で、一つに結びついていったのです。



① 15世紀前半の東洋の貿易中心地として発展したポルトガルのインド洋の据点、コロンボの港。胡椒や香料の貿易の中心として大いに繁栄しました。



② 東アジアの貿易圏 15世紀ごろまでのヨーロッパでは、香料などの高価な商品と交換して利用された胡椒の貿易が盛んに行われていました。

③ 繁栄するアジア

アジアの国々は、香料や胡椒・絹織物などを優先に交易しました。そのため、物産の大量輸送ができる海の交易ルートの発展が富まり、15世紀には、巨州、暹羅、マラッカなどの貿易都市が発達しました。また、海は大航海を誘導させ、陸路は、現在の北アフリカにまで達しました。

④ 活躍するイスラム商人

8世紀以降、イスラム商人は、インド洋上の海の道を利用した交易ののり手でした。かれらは、アジアの交易品のほか、中国で発明された火薬や方位磁針などの先進技術をヨーロッパにもたらしました。かれらがもたらすアジアの物産や情報は、ヨーロッパのアジアへの関心を高めました。



⑤ 大船に乗るイスラム商人 8世紀半ば以降、イスラム商人は、季節風を利用して遠く大船といの船に乗り、インド洋から南シナ海にまたがる海の交易ルートを広げていきました。

**思想・宗教** **イスラム教**  
イスラム教は、7世紀はじめ、アラビア半島のメッカの商人ムハンマド(マホメット)によりはじめられました。ムハンマドは、ただ一つの神アッラーの教ではあな平等であり、神を心から信じ正しい行いをすることの大切さを説きました。イスラム教は、アラビア半島から西アジア、インド、北アフリカ、東南アジアなどに広がり、現在では世界に12億人をこえる信者をもつといわれています。



⑥ 16世紀はじめの世界



⑦ コロンブス



⑧ バスコ・ダ・ガマ

⑨ ヨーロッパの自覚め

14世紀ごろ、アジアとの貿易で栄えたイタリアの都市では、人間の個性や自由を表現しようとする新しい文化が生まれ、やがてヨーロッパ各地に広がりました。これをルネサンス(文藝復興)とよびます。また、製鉄技術もめざましく発達し、アジアなどから伝わった技術に独自の改良を行いました。一方、教会が、大きな国家建設のために資金を集めたことが人々の批判をよび、宗教改革がおこるきっかけとなりました。



⑨ ボッティチェリの『春』(上)と『春』(下) 14世紀の文藝復興(ルネサンス)の文化を象徴し、これを復興させようとした運動でした。



⑩ 大航海時代へ

ヨーロッパ諸国は、アジアをめざして、新しい航路の探求にのりだしました。その結果「発見」されたアメリカ大陸は、金銀など多くの富をヨーロッパにもたらしました。



⑩ 新大陸で発見されたアメリカ産作物

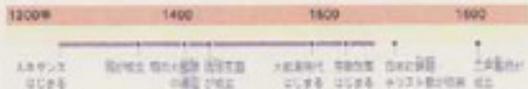
● 「新大陸」からやってきた作物 ヨーロッパ人の大航海を通じて、アメリカ大陸から、ジャガイモ、とうもろこし、トマト、かぼちゃなどの作物が世界各地にもたらされました。南瓜(カボチャ)は日本に伝わったかぼちゃの名は、東南アジアの国「カンボジア」が由来です。

世界史を  
深めよう 2

一つに結  
びつく世界



この時代に、  
どうしてヨーロ  
ッパの人々が、  
アジアにむんべ  
んにやってきたの  
かな。



15～16世紀にかけて、東アジアでは、中国の明を中心に、朝鮮・日本・東南アジアを結ぶ交易が盛んでした。また、西アジアから北アフリカ、インドにかけてイスラム教国が拡大し、イスラム商人は、インド洋を舞台にした貿易で活躍しました。そうしたなか、ヨーロッパ人は、アジアやアメリカ大陸へ向かう航路をひらき、これらの地域へ積極的に進出しました。やがて世界は、ヨーロッパがアジアやアメリカ大陸を支配し従える形で、一つに結びついていったのです。



① にぎわう中国の港 ② 貿易の中心地は現代のものと同じく上海、北京などの港は、絹織物や磁器の交易の場として大いに繁栄しました。

① 貿易の中心地 15世紀ごろまでのヨーロッパでは、東アジア・インド産の香料以外の自由貿易として利用されたいへんの重要輸品でした。下の図表はこれです。



② 繁栄するアジア

アジアの国々は、香料や絹織物・磁器などを交易に活用しました。そのため、物資の大量輸送ができる海の交易ルートの安定期が続き、15世紀には、泉州、杭州、マラッカなどの港湾都市が発達しました。また、船は大陸横断を可能にし、陸路は、現在の北アフリカにまで達しました。

③ 活躍するイスラム商人

8世紀以降、イスラム商人は、インド洋上の海の道を利用した貿易の得意手でした。かれらは、アジアの交易品のほかに、中国で発明された火薬や方位磁石などの先端技術をヨーロッパにもたらしました。かれらがもたらすアジアの物資や情報は、ヨーロッパのアジアへの関心を高めました。

④ 思想・宗教 イスラム教

イスラム教は、7世紀はじめ、アラビア半島のメッカの商人ムハンマド(マホメット)によりはじめられました。ムハンマドは、ただ一つの神アッラーの前ではみな平等であり、神を心から信じ正しい行いをすることの大切さを説きました。イスラム教は、アラビア半島から西アジア、インド、北アフリカ、東南アジアなどに広がり、現在では世界に12億人をこえる信者をもつといわれています。



③ 大航海時代の始まり 15世紀後半以降、イスラム商人は、季節風を利用して来る船という航路に乗り、インド洋から南シナ海にまたがる海の交易ルートをひらきました。



④ ヨーロッパの冒険め

14世紀ごろ、アジアとの貿易で栄えたイタリアの都市では、人間の個性や自由を表現しようとする新しい文化が生まれ、やがてヨーロッパ各地に広がりました。これをルネサンス(文藝復興)とよびます。また、科学技術もめざましく発達し、アジアなどから伝わった技術に独自の改良を行いました。一方、教皇が、大きな聖地巡礼のために資金を集めたことが人々の批判をよび、宗教改革がおこるきっかけとなりました。

⑤ 大航海時代へ

ヨーロッパ諸国は、アジアをめざして、競って新航路の発見にのりだしました。その結果「発見」されたアメリカ大陸は、金銀など多くの富をヨーロッパにもたらしました。



④ ボッティチエリ『春』(上)と⑤ 古代ローマの三女神(左)。⑥ 14世紀の三女神(右) 人間や自然の造りのままの姿を現わすようとしたルネサンスは、古代ギリシャ・ローマの文化を復興とし、これを復興させようとした運動でした。



⑦ 新大陸で発見されたアメリカ産作物

●「新大陸」からやってきた作物 ヨーロッパ人の大航海を通じて、アメリカ大陸から、ジャガイモ、とうもろこし、トマト、かぼちゃなどの作物が世界各地にもたらされました。高麗参が日本に伝わったかぼちゃの名は、東南アジアの国(カンボジア)が語源です。



⑧ コロンブス



⑨ バスコ・ダ・ガマ